山幸橋から高雄

京都府山岳連盟トレイル委員会

標識北山 56トレイル入口

旧標識北山 57
落雷で全焼の標柱

標識北山 58 雲ヶ畑古道

盗人谷の危険個所

盗人谷三の橋

トレイルコースの氷室を経て高雄へは、山幸橋の標識北山55から雲ヶ畑街道（大岩街道）を横断し、対面の標識北山56の階段の登りから始まる。

『大岩街道：旧トレイルコースが、夜泣峠から降り栗夜叉谷を経て雲ヶ畑街道と合流する地点に、街道に被さるように大岩があり。よって雲ヶ畑街道を大岩街道ともいう。』

民家倉庫の裏に回りこむように進むと、ルートの右側が崖となっている場所がある。整備はされているが注意して歩こう。
標識北山 57 標柱は直進せず、折り返すように左折し林間の道を登る。

『標識北山 57：先代の標柱は平成 23 年 1 月、冬期でしかも上部に樹木が茂る林間にあるのに、標識板の止ネジに雷の直撃を受け、標柱のみが全焼した。周囲の落葉には焦げた痕跡も無い。非常に特異な現象なので特筆する。（写真参照）』

杉林を抜けると、害獣除けの電気柵は設置されているが、放置された畑が開け、畑の中の道を進むと標識北山58 のT字路で左からの道と合流する。右手に伸びる野道が旧雲ヶ畑街道である。

『旧雲ヶ畑街道：現在では踏跡も確認できないが、現在の雲ヶ畑街道が開削されるまでは、このＴ字路を直進し左手の谷を降りるルートが、平安時代からの歴史ある「岩屋山志明院」参拝道の雲ヶ畑街道だった。
この古道の登り口を車坂といった。都の堂上人や高貴な姫君が志明院へ参拝する折は、都から車坂まで牛車に揺られ来るが、車坂からは輿に乗ってこの古道を行ったという。』
『岩屋山志明院：正式名称は岩屋山金光峰寺志明院。役の行者の創建で中興の祖は弘法大師、本尊は不動明王で岩屋山不動教の本山である。淳和天皇の勅願寺で朝廷始め、公卿堂上人はもとより、庶民にも崇拝された。加茂川の源流の一つで水を司る神を祀る。歌舞伎十八番「鳴神上人」の舞台としても有名である。』

トレイルコースは標識北山58 のT字路を右折し、植林の中の道に入る。枝沢にはトレイル委員会が、丸木橋（一の橋）を設置しているが五年ほどで架け替えている。コースは谷からは相当上部につけられ杉の美林が続くが、台風の名残の倒木も目立つ、倒木の乗越が必要な個所もあり注意して歩きたい。やがて谷沿いの小

道になるがこの谷を盗人谷と呼ぶ。

『**盗人谷：**奇異な名であるが、落語に「盗人谷」というのがあり、名の起こりを氷室の氷を盗む話で説いているが、真偽のほどは不明。』

標識北山 59 とコース案内板がある場所付近から、台風の影響が大きく相当荒れており充分注意したい。主谷を渡るが増水時の渡渉には十分に気を付けたい。標識北山 60 で谷は再度二股に分かれ、トレイルコースは左股に入る。右股が岩屋山志明院への往古の参拝道で、満樹峠を越え早刈谷から雲ヶ畑街道の中津川に出ていた。国地院 2.5 万図には破線が入っているが、現在はかすかな踏跡が残るのみで、谷の上部の満樹峠手前は廃道で、かつ台風の倒木も未処理のままで侵入は避けたい。

標識北山 60 の谷分岐周辺から二の橋跡までは、2018 年の台風 21 号による倒木で、無残なまでの惨状を呈していた。現在は通行出来るまで復旧しているが注意して登りたい。倒木帯を通過すると二の橋跡で橋は流出しており、沢に降りて渡る仮設の迂回路となっている。

二の橋跡手前から右斜面を直上する踏跡を登ると、氷室から満樹峠への途中の寺山峠へ至るが、ルート下部は急登で踏跡は不明確である。

二の橋跡から三の橋までは緩やかな登りコースであるが、三の橋から氷室の入口である小峠までは急坂が続くのでゆっくり登ろう。

三の橋は腐朽が進んでおり現在通行禁止で。手前から対岸に渡る迂回ルートが設けてある。

途中の標識北山 61 の分岐は直進せず右へとり、ひとがんばりで標識北山 62 の小峠に着く。峠から右へ分岐する踏跡は、先程の二の橋跡からのルートと寺山峠で合流し、満樹峠を経て十三石山へ（約 40 分）で至るルートである。

盗人谷小峠

氷室の害獣侵入防止柵

氷室の里風景

国指定遺跡　氷室碑

氷室の跡

『十三石山（三等三角点 495.5m）：山名は、昔、雲ヶ畑村が上賀茂神社に米十三石で山を売渡した事からとも、この山の年貢が十三石だったとかに由来するともいわれている。満樹峠は岩屋山志明院の参詣道として人の往来が盛んだった頃、峠に１軒の茶店があり名物饅頭を出していたことから饅頭峠が偏ったという説。また、古書によると一帯に大樹が満ち満ちていたためとも記されている。　又、このような伝説も、牛若丸が鞍馬山で修業中に、所の長者の娘である満樹姫の元に夜な夜な通ったという。そういえば子供の頃に羽子板に、満艦飾の髪飾りを付けた満樹姫の押絵があったような気もする。』

現在、標識北山 62 の小峠に林道が開削された。小峠から林道を西に直進すると標識北山 63 のＴ字路と出会う。右にとると途中で小峠からのルートと合流し、満樹峠を経て十三石山へのルートにつながる。氷室へはＴ字路を左折し害獣防止柵を潜る。害獣防止柵の通行後はしっかりと扉

杉坂の道風神社

氷室神社

往時の京見峠茶屋

標識北山69からの展望

標識北山 69～70

を施錠する事。民家の先に標識北山 64 がある。

氷室はいつ来ても静かな日本の原風景の様な山里の集落である。氷室の里の由来となった氷室跡への道は、地蔵様が祀られた標識北山 65 の辻から山へ向かう林道へ入り、すぐに左上へ登る細いあぜ道に入る。民家の裏手を通り前方の山裾を目指し、山裾から左に降りるあぜ道に、害獣進入防止の電線を外して通り抜け、国指定史跡の石標が建つ分岐を右手の高みに登った処である。何の変哲も無い窪みが三ヶ所ある。通過した電線は元通り掛けておこう。

『氷室：夏に朝廷へ献上するための氷を貯蔵しておく穴室のことで，平安京の造都にともなって、周辺の集落六か所に氷室が作られた。この地もその一つであり栗栖野氷室跡といい『延喜式』にも記載された国指定史跡である。辺り一帯は民有地であり、住民の姿を見かけたら一言の挨拶等の心使いが欲しい。』

氷室跡からあぜ道を降ればすぐに小道となり、約 1．7km で杉坂の道風神社の前に出る。道風神社は花札の「柳に飛びつく蛙」の図柄にも描かれた、平安時代の三蹟の一人小野道風ゆかりの神社である。道風神社前から府道３１号線を京見峠方向に登れば、約 1.8km で「レストランはせがわ」入口の標識北山 67-2 でトレイルコースに合流する。

地蔵様の標識北山 65 まで戻り、舗装道路を進むと左手に氷室神社がある。

『氷室神社：氷室村の産土神でもある。仁徳天皇の時代に額田大中彦皇子へ氷を献上したという、稲置大山主神が氷室大神として祀られている。また、古来痘瘡（天然痘）の神としても信仰されてきた。天然痘が廃絶した我国では、神様もさぞ無聊を囲っておられるに違いない。

古びた鳥居越しに参道の奥に見える拝殿は、徳川家康の孫で後水尾天皇の中宮、東福門院の寄進によるもので、京都府登録文化財に指定されている。拝殿脇の湧水は小水量だが美味である。拝殿には蓋い屋根が設けられ、今は「枯れた」という表現がぴったりの神社だ。

上賀茂へ分岐の標識北山 66 から、城山の峠上までだらだらと舗装道路の辛い登りだ。峠から右上に登る踏跡を辿り高度差数十ｍ登れば、城山の（三等三角点 479.8m）である。疎林の中に室町時代の城郭（砦）遺跡が散在しており、明智光秀が築いたとの伝承もある。展望は無いが時間があれば寄ってみたい。

舗装道路の登りを嫌うなら、氷室跡から杉坂に向かうあぜ道を少し下り、左の一つ目の浅い谷を詰めると、城山の南西尾根の林道に登り付く。城山下の無線アンテナを目標に左折すればトレイルコースに合流する。あまり歩かれていないので注意が必要。

前坂の地蔵尊

城山下の無線アンテナを過ぎると左の尾根に小道が分岐するが、作業道でありトレイルコースは補助標識が設置してある舗装道路を降る。標識北山 67-1 の三叉路「氷室別れ」で、トレイルコースは 2 コースに別れる。

当初のトレイルコースである京見峠には、「氷室別れ」の三叉路を直進。京都一周トレイル案内板のある標識北山 68 から右への山道を登る。急坂の山道を登りきるとなだらかな尾根道となる。その先の標識北山 69 からの京都市街の展望は素晴らしい。

山のレストランはせがわ

「レストランはせがわ」への分岐の標識北山 70 は程近い。標識北山 70 は春には山小屋脇の枝垂れ桜が美しいコルで、「レストランはせがわ」までの往復は約 30 分である。8 月 16 日、大文字送り火の秘めた参拝場所でもあるが、レストラン長谷川から真っ暗な山道をたどる必要があり、それなりの準備は必要である。

はせがわのトイレ棟

別コースは「氷室別れ」標識北山 67-1 から右へ杉坂方面に向かう。由緒ありげな地蔵さんの祠が岩の上に鎮座している。この辺りを槍磨岩町という。前坂の集落を過ぎ、標識北山 67-2 を左に入るとログハウス「レストランはせがわ」がある。標識北山 67-2 を直進すると前坂の名水が湧いている。「レストランはせがわ」では名水で沸かしたコーヒーが味わえる。オーナーの好意により、京都一周トレイルトレッカーには、北山 67-3 標識対面にある小屋棟二階のウオッシュレットトイレが解放されている。美しく使用させて頂こう。

標識北山 70 付近

「レストランはせがわ」前の標識北山 67-3 から、左に入る林道を登り詰めると、京見峠ルートとの合流点標識北山 70 である。

このルートは秋の九月二十五日から十一月十日までのマツタケシーズンは通行禁止で、標識北山 68 から更に舗装道路を下り、峠の茶店のある「堂の庭」を経て、長坂分岐を千束まで下り、東海自然歩道を紙屋川の源流の坂尻まで詰めて、上の水峠に登る迂回路を利用する必要がある。

旧北山 76 崩落地通行止

『京見峠：往古は「洛中一望の中にあり」と称され絶景の地であったが、今は植林が成長したため絶景は望むべきも無い。大正時代に周山街道が開削されるまでは、京見峠を経る長坂越えが西の鯖街道として、丹波から都への脇街道でもあった。多くの旅人が一刻を憩った峠の茶屋は、残念ながら閉鎖されてからもう幾久しい。

上の水峠新北山 76 標識

源平の昔から南北朝時代を経て応仁の乱でも、多くの戦場としての歴史を持ち、ちなみに千束とは墓場という意味で、京見峠手前には、槍磨岩町といういかにも戦国の歴史を彷彿とさせる地名もある。迂回路の長坂越えを廻るのも、このような歴史を持つ道と思えば一興である。』

菩提ノ滝道合流北山 77

標識北山 70 から林道を進み、左に入る山道の分岐が標識北山 71 である。標識北山 72、標識北山 73、標識北山 74 の標識に誘導され、最後に急坂を下ったところが、標識北山 75 の「上の水峠」分岐である。

千束から坂尻を経るマツタケシーズン中の迂回ルートは、台風の倒木処理も済み、標識北山 75 で合流している。

沢山分岐新標識北山 78

旧来の「上の水峠」は、旧標識北山 76 から旧標識北山 77 に至る展望の良いコースであったが、旧標識北山 77 の手前で、2018 年の台風 21 号により完全に崩落し通行不能になった。そのため現在は標識北山 75 から反対方向に、東海自然歩道である林道を北に辿る。新標識北山 76 で林道は舗装路となり、新標識北山 77 で、国道 162 号線京都市右京区中川からの菩提ノ滝林道と合流し標識北山 78 林道分岐、標識北山 79 に迂回する。

旧 上の水峠の祠

新標識北山 78 林道分岐、旧標識北山 79 分岐共、左へ辿れば、崩落した旧「上の水峠」で合流し、沢山（三等三角点 516.0m）に至る。

崩落した旧「上の水峠」には岩頭に小さな祠がある。中には肩を寄せ合った三体の仏様が祀られ、峠を西に下った「中川集落」の盆踊歌にも歌われる悲恋物語が伝わっている。崩落で人も通らなくなった峠道は、伝承からもひっそりと消えていくのであろう。

沢ノ池夕景

標識北山 79 から１ｋｍ弱も舗装林道を登れば、標識北山 80 の「沢ノ池」である。「沢ノ池」は豊富な湧水があるのか、大きな沢も流入していないのに、いつも満々とした水を湛えている不思議な池である。

沢ノ池秋色

現在は「菩提の滝」の水源にしか役立っていないようだが、元々は嵯峨野地区の灌漑用に作られた人工池で、標高 360ｍの山中に広々と静まりかえっている。標識北山 80 の林道ゲートから 200ｍ程の砂浜は、時代劇の映画・テレビのロケ地にも度々利用され、絶好の休憩場所で、一帯が縄文時代の「沢ノ池遺跡」であり、よく探せば石の矢尻等が見つかるかも知れない。

初夏の沢ノ池

標識北山 81 で林道は終点で、木の根が露出した坂を少し登れば、標識北山 82 の「仏栗峠：ほとぐり峠」である。いつの頃から呼ばれている名であろうか、なんとも思わせぶりな峠名である。

今は使われていないが、沢ノ池からは、仏栗峠下から高鼻川に流れる隧道と、途中から分岐して三宝寺川へと流れる隧道の２本があり、鳴滝川経由て嵯峨野の灌漑用水として送られていた。今も峠の下に人知れずひっそりと眠っている。

北山 85 分岐

仏栗峠の標識北山 82 を左に行けば「沢山」への道が分岐し、そのまま直進すれば「桃山」、「白砂山を経て鳴滝」へ下る道に至るが、倒木が多く通過は困難が予想される。

トレイルコースは標識北山 82 を右折する。福ケ谷林道までのメインルートは台風による倒木の処理が進み、標識北山 84 までは樹林の中の緩やかなルートなったが、途中の分岐には入らないように注意。標識北山 83 で鳴滝高鼻町に降るルートが分岐していたが、整備されていないので廃道となっている。

標識北山 85 福ヶ谷林道出

標識北山 84 は直進せずに左折する。やがて急降下の岩稜の降りとなり。雨裂で深くえぐれたルートも残っているので足元には十分に気を付けよう。台杉の植林を抜ければ、標識北山 85 の舗装された福ヶ谷林道分岐に降りつく、林道を 20m程登れば道路右にきれいな水場がある。

福ヶ谷林道から愛宕山

標識北山 85 で右に分岐する未舗装の林道は、鳴滝高鼻町に出られるが林道は途中までで、林道終点からはおびただしい風倒木と、何度も渡渉を強いられる悪路で通行困難である。

トレイルコースは標識北山 85 から福ケ谷林道の舗装路を降る。逆コースの場合は、高鼻町に向かう未舗装林道に沿うように、台杉の植林端にトレイルコースの山道が登っている。

高山寺参道秋景

『北山杉：京都一周トレイル北山コースは、よく手入れされた真っ直ぐに延びた杉の美林の中を歩くルートが多い。この杉が和風建築資材に嘱望される北山磨き丸太に加工されるのである。応永年間に生産が始められたと伝えるが、ことに中川地区では特に粒子の細かい「菩提の滝」の砂を採取し、冬季に姉さん被りに紺がすりのもんぺ姿の女性が、素手で丹念に磨き上げげて仕上げるのである。北山の冬の風物詩で川端康成の「古都」の舞台でもある。

北山杉の植林でプラスチックの小片を巻きつけた木に気付く、この杉が人工的にシボを付けた丸太となり、床柱に加工されて高級建材となる。』

標識北山 88 清滝方面分岐

標識北山 86 を経て、急坂の舗装林道を降れば槙ノ尾で、標識北山 87 は国道 162 号に架かる白雲橋の脇にある。国道を右折し橋を渡れば約 250m で栂ノ尾の高山寺に至る。

『高山寺：真言宗御室派の単立寺院であり、いわずと知れた鳥羽僧正の国宝「鳥獣人物戯画」はじめ、数多くの貴重な美術工芸品を所有する。度々の戦乱でほとんどの建物は後年の再建であるが、明恵上人の住居跡と伝えられる石水院は、鎌倉時代に建たてられたもので国宝に指定されており、寺域全体が国の史跡に指定され、もちろん世界文化遺産にも登録されている。』

標識北山 87 から国道を左折し約 200mで槙ノ尾バス停である。バス停前の三差路から南に降る下る道が、清滝方面に向かうトレイルコースで、三差路の角に北山 88 標識が建っている。

「所要時間参考」
山幸橋北山 56（25 分← →35 分）小屋跡北山 60（25 分← →30 分）小峠北山 31（10 分← →10 分）氷室、地蔵の辻北山 65（35 分← →35 分）氷室別れ北山 67
※ 氷室別れ北山 67-1（15 分← →10 分）京見峠分岐北山 68（15 分← →20 分）標識北山 70
※ 氷室別れ北山 67-1（15 分← →10 分）レストランはせがわ北山 67-3（10 分← →15 分）標識北山 70（40 分← →35 分）上水峠北山 75（20 分← →25 分）林道北山 79（15 分← →15 分）沢ノ池北山 80（15 分← →20 分）ほとぐり峠北山 82（15 分← →15 分）北山 84 分岐（30 分← →20 分）福ヶ谷林道分岐北山 85（40 分← →30 分）白雲橋北山 87（5 分← →5 分）槇ノ尾バス停北山 88

※山幸橋までは、北大路烏丸交差点 東約 50m もくもく号乗り場（9 名乗りのジャンボタクシー）利用。当日、もくもく号を 9 名以上で乗車希望の場合はヤサカ自動車上堀川営業センター 075-491-0251 に連絡すれば増発の便宜が図られる。

山幸橋～高雄間のトレイルコース詳細は「京都一周トレイル北山西部」地図を参照してください。
地図販売所に関するお問合せ、その他京都一周トレイルに関するお問合せは
京都市産業観光局　観光 MICE 推進室（TEL075-746-2255）
kanko.city.kyoto.lg.jp/trail/　京都一周トレイル−京都観光 Navi を参照してください